

## ダウン症のAちゃん

小 六

私の弟の友達には、障害のある子がいます。障害には、さまざまな特ちょうがあります。弟の友達Aちゃんは、ダウン症という障害があります。あなたの身近に障害のある人はいませんか。私は、初めはAちゃんに障害があることはわかりませんでした。ただ、幼稚園なのに、もっと小さい子に見えていました。

んに聞いてみると、「Aちゃんは病気じゃなくて障害だよ。ダウン症っていう障害なの。」そう聞くと、私は障害についての見方が変わりました。障害という言葉は知っていても、身近にだれもいないと思っていたので、まさかこんな身近にいるなんて、おどろきました。そして、それからAちゃんに対してどう接したらいいのか、わからなくなりました。夏になると、毎年、弟の友達家族と合宿をしています。もちろんAちゃんもいっしょです。一回目に泊まった所では、最初に大人だけが集まって説明を聞きました。そのときは、子供は聞いてはいけませんでした。そこで、Aちゃんも、お母さんから待っていてと

言われていました。しかし、Aちゃんはお母さんからはなれようとしませんでした。そのときです。私は頭では考えていなかったのに、

「Aちゃん、いっしょに遊んで待って  
いよう。」

と声をかけていました。すると、Aちゃんは、うれしそうに私に向かって走ってきました。きつとAちゃんはだれかに声をかけられるのを待っていたのだなと思いました。それから、お母さんたちを待っている間に、Aちゃんとても仲良くなれました。いっしょに水遊びをしました。いっしょにかけっこもしました。いっしょに写真もとりました。ダウン症という障害があっても、みんな同じ人間で、同じように生活で

きるのだなと思いました。

しかし、私が一番なやんだのは、接し方ではなく言葉でした。ダウン症の子の多くは言葉が聞き取りにくかったり、しゃべれなかったりするそうで、Aちゃんの言葉も聞き取りにくかったです。パーベキューなどをしたときにも、

「いるの。」

と聞くと、

「い：：：。」

のように最初が聞こえても、後がわからないので、Aちゃんに

「動きでやって。」

と言いました。すると、わからなかった言葉もわかるようになりました。私は何とか聞き取れるように、努力した

いと思いました。

私は、ダウン症という障害を知って、障害のある人が、身近にいるかもしれないと考えていた方が、よいのではないかと思いました。何も考えずに障害のある人と接するのは、とても難しいと感じたからです。みんな同じ人間です。障害のある人達も困っているのかもしれません。みなさんも一度、障害について考えてみてください。